

令和2年度 さいたま市立大久保中学校 自己評価書

校長 木 寺 恒 印

1 学校で設定した「令和2年度の目標」及び関係する「評価項目」について

- (1) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善・教育活動の工夫等による学習習慣・基礎学力の定着
 - ・校内研修の充実、「よい授業」のアンケートの活用、ICTを活用した教育活動
 - ・「生活ノート」自主ページの活用、モジュール学習、特別授業、補習授業、NIE 等
- (2) 「時を守り（ノーチャイム）、場を清め、礼を正す」指導の徹底
 - ・小・中・高・大学連携、大久保学園構想の充実、キャリア教育の充実 等
- (3) 「大久保中学校いじめ防止基本方針」に基づく、輝く笑顔にあふれた学校づくりの推進
 - ・道徳教育・人権教育の推進、信頼関係に基づく生徒指導と教育相談 等
- (4) 学校業務改善を意識した計画的・効率的な業務の推進
 - ・個人目標の設定 ・在校時間の管理 ・業務の見直し ・行事の見直し 等

2 評価結果について

・学校評価において、「分りやすい授業」の肯定的評価は、生徒 96.1%、保護者 90.1%で昨年より向上。「基礎学力・家庭学習の定着」の肯定的評価は、生徒 84.5%で昨年より 3%減だが、保護者は 70.1%で昨年より 7.2%向上し過去 3 年間で最高値となった。「良い授業」のアンケートでは、4つの因子が全て市の平均値を上回り、教員の評価でも「授業改善」は高い評価であることから、校内研修や授業改善、各種の学習が徐々に成果をあげていると考えられる。今後も改善の取組を継続する。ICTの活用は進んでいるが、39%の教員が十分でないと回答しており課題となる。

・いじめ防止対策について、「生徒一人ひとりを理解し、悩みや相談に親身になって考えてくれている」では、生徒・保護者ともに 93%以上が肯定的評価であり、道徳教育や日頃の声掛け、組織的で迅速な教育相談対応が成果をあげていると評価できる。学校休業の影響も考えられるが、「喜んで学校に通っている」では、生徒の肯定的評価が 3%減少したので、限られた条件の中での教育活動の改善をさらに推進していく。

・業務改善では、「在校時間を意識した計画的な業務の進行・業務繁忙な場合の協力」について、肯定的評価が 92.5%と意識を高く持ち取り組めた。また、行事についても大幅な見直しを図り効率的かつ生徒の満足度の高いものとする事ができた。

3 次年度に向けた具体的な改善策について

・校内研究課題「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の工夫」を継続し、要請訪問の再開、授業での情報機器の活用など、研修を深め、授業力の向上・授業改善を推進する。

・学校独自の「生活ノート」の自主学习ページの活用と家庭との連携をより一層強化して家庭学習の定着を図る。

・話し合い活動の充実を図り、学校生活について自己決定する機会を設けるなど生徒がより主体的な生活ができる資質を育成する。

・大久保学園構想による小中連携、中・高・大連携の充実に向け、合同研修会や小中高大連携プログラミング授業を実施し、キャリア教育の推進や目標を見据えた意欲的な学校生活へ結びつける。

・業務改善へ向け、学校全体の取組、個々の実践事例の共有や行事の更なる精選を行い、生徒に寄り添う時間、教育の質を高めるための時間、ワーク・ライフバランスを取る時間を確保する。

※ A4判1枚程度に簡潔にまとめる。教育委員会に写しを提出する。